

特集関連の蔵書・報告書 リスト

【選】
旅の図書館副館長
大隅一志

「旅の図書館」にある
6万冊の蔵書の中から、
特集に関係の深い図書と報告書を
リストアップしました。
今号は
居住地域のオーバーツーリズム
についての特集ですが、
ここでは自然環境地域における
関連図書・報告書も
併せて紹介しています。



自然ツーリズム学
(よくわかる観光学2)
菊池俊夫
有馬貴之 編著、
朝倉書店、
2015



**日韓国際観光
カンファレンス2018**
Korea Japan
International tourism
conference 2018
(公財)日本交通公社、
(公財)日本交通公社、
2018



**ツアー事故は
なぜ起こるのか**
マスツーリズムの本質
(平凡社新書728)
吉田春生、
平凡社、
2013



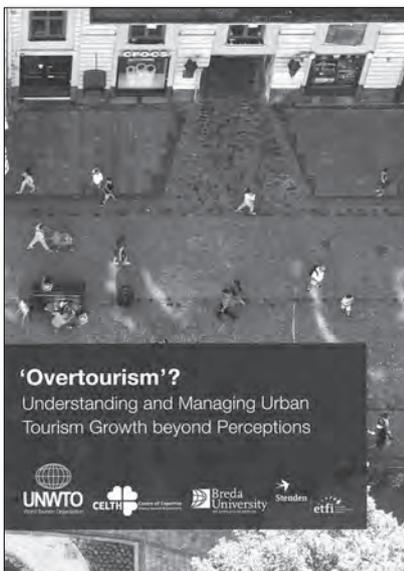
**“観光公害”概念の再定義
—グローバル観光時代の社会
地域問題の解説を見据えて—**
日本観光学会誌
第57号
pp.43-50
天野景太、
日本観光学会、
2016



**環境省環境研究
総合推進費終了
研究等成果報告書**
持続的地域社会構築の
核としての自然保護地域の
評価・計画・管理・
合意形成手法の開発
平成26年度～平成28年度
Developing Tools for Evaluation,
Planning, Management and
Consensus Building in Protected
Areas as Cores
for Sustainable Local Communities
東京農工大学
北海道大学ほか著、
環境省地球環境局
総務課研究調査室、
2017



**日本ヒマラヤ協会
創立50周年記念
日本ヒマラヤ登山通史**
山森欣一、
日本ヒマラヤ協会(HAJ)、
2018



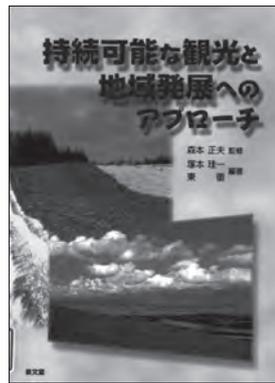
Overtourism?
Understanding
and managing
urban tourism
growth beyond
perceptions
World Tourism
Organization
(UNWTO),
World Tourism
Organization
(UNWTO),
2018



観光概論
第10版
穴戸 学
鈴木涼太郎 ほか著、
JTB総合研究所、
2017



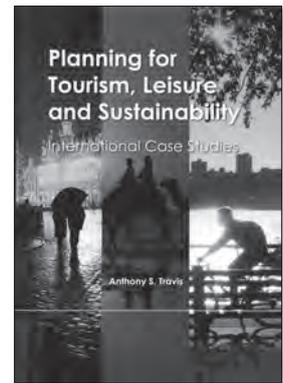
レジャーの社会経済史
イギリスの経験
荒井政治、
東洋経済新報社、
1989



持続可能な観光と地域発展へのアプローチ
塚本圭一、
泉文堂、
1999



利用体験から見た尾瀬の収容力に関する調査総合報告書
～特に尾瀬ヶ原を中心にして～
尾瀬保護財団、
尾瀬保護財団、
2005



Planning for Tourism, Leisure and Sustainability
International Case Studies
Travis, Anthony S,
C a B Intl,
2011



アジアの観光公害
O'Gray, Ron.
中嶋正昭、
教文館、
1983



21世紀の観光開発に関するシンポジウム「持続可能な観光を目指して」報告書
国際観光開発研究センター、
国際観光開発研究センター、
1996



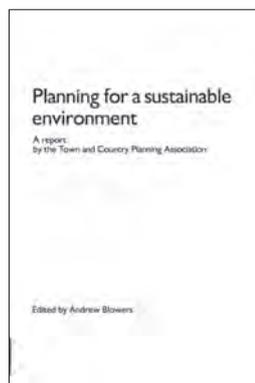
自然保護とサステイナブル・ツーリズム
Eagles,
Paul F.J.著、
小林英俊 監訳、
平凡社、
2005



TOURISM MANAGEMENT
FOURTH EDITION
Weaver, David Bruce,
WILEY,
2010



“再び観光公害について”
「日本観光学会
研究報告 第10号」
pp.32-36
小池洋一、
日本観光学会、
1979



Planning for a sustainable environment :
A Report by the Town and Country Planning Association
Andrew Blowers編、
Earthscan Pubns Ltd,
1993



持続可能な観光の推進に係わる現場指針の検討に関する調査 運輸経済協力環境配慮方策調査(観光)報告書 要約
国際観光開発研究センター、
国際観光開発研究センター、
2000



観光まちづくりのエンジニアリング
観光振興と環境保全の両立
国土総合研究機構
観光まちづくり研究会、
学芸出版社、
2009

『観光文化』 バックナンバーのご案内

- 180号(2006年11月発行)から、全ページを当財団ホームページで公開しています。
- バックナンバーは、アマゾンamazon.co.jpでオン・デマンド印刷版を販売しています。
- 年間定期購読については当財団のホームページでご案内しています。

239号(2018年10月発行)

特集 古書から学ぶ



旅の図書館は2018年に開設40周年を迎えました。開設以来、観光・旅行に関する最新の図書や雑誌に加え、明治・大正・昭和戦前期の古書や地誌、社史といった古い資料も収集してきました。こうした古書の中には、その分野、その時代において大きな影響を与えたものや、現代にも通じる示唆を投げかけるものも多く存在します。また、思わぬ発見やアイデアの宝庫であることに気づかれます。

本特集では、古書を活用しながら研究を進めている先生方に、歴史を語る上で欠かせない古書や、影響を受けた古書をご紹介します。古書の魅力や古書から学ぶ面白さを知って、古書を手取るきっかけとしていただけたら幸いです。A4判60ページ／1,000円+税



238号(2018年7月発行)

特集 インバウンド時代の観光振興財源



経済のサービス化のなか、「観光」は地域経済振興のエンジンとして期待される存在になりました。しかし、観光振興に伴う取り組みは広範で、これらの取り組みを実際に展開するには、多様な事業を持続的に展開できるだけの財源を有する必要があります。その財源として、法定外目的税である宿泊税の導入や、入湯税の増税などが各地で検討されていますが、税に対するアレルギーや誤解も多いのが実情です。本特集では、宿泊

税などの国内外の事例や制度を取り上げ、観光振興財源の導入と活用に向けた提言を行っています。A4判56ページ／1,000円+税

237号(2018年4月発行)

特集 これからの地域交通と観光



地域交通をめぐる環境変化はめまぐるしく、ICT、EVなど新しい技術の進展や自動運転導入へ向けた社会実験、また、BRT(Bus Rapid Transit)、公共交通空白地有償運送、貨客混載といった新しい交通システムの導入が進んでいます。一方、観光市場においては、インバウンド市場の急伸に加え、国内旅行も含めたFIT化が進展して、地域交通の重要性も高まっています。本特集では、こうした環境変化の中、高齢化や人手不足

等の諸課題を抱えた地域が公共交通を樞子に地域づくりを進めていく際に、観光はどのように寄与することができるのかについて、研究者の意見や先進事例の取材を通じて考察します。A4判52ページ／1,000円+税

236号(2018年1月発行)

特集 人生に旅を！ 節目旅行ノススメ



旅に出るきっかけを人生の“節目”に求めるのは日本人だけではないだろうが、旧暦にみられるように季節の変化がはっきりし、伊勢参りのように本音と建前を使い分ける日本人には節目をいわば言い訳に旅に出る傾向が強い。近年、若者の間では、“節目に旅に出る”から“旅に出ることで人生に節目を作る”、つまり希薄になった地縁、血縁などの人間関係を円滑にするため、仲間と一緒に旅に出かけることで節目を作る

という知恵が生み出されているとも言われている。節目旅行の意味が大きく変わろうとしているとみることもでき、地域がこうした新たな需要に対応していくことも一考に値するのではないかと。A4判66ページ／1,000円+税

● 図書のご案内

『育て、磨き、輝かせる インバウンドの消費促進と地域経済活性化』(2018年7月、発行：株式会社 ぎょうせい)

近年、訪日外国人旅行者数は毎年過去最高を更新し続けています。今後、インバウンド需要を取り込もうとする地域にとって重要なことは、先進的にインバウンド対応事業や施策を行い、特に地域への経済効果向上の観点から、どのような成果を上げてきたのか検証し、施策や事業を検討することです。特に近年では「モノ消費」(爆買い)から「コト消費」(体験)へと変化するインバウンド需要をどう地域に取り込むかがポイントになっており、地域資源を「育て、磨き、輝かせる」ことで、訪日外国人旅行者に



よる交流人口を拡大し、地域活性化に成功している事例が出てきています。そこで本書では、経済効果を高めるにあたって重要な「①訪日外国人旅行者を“増やす”」「②訪日外国人旅行者の消費単価を“上げる”」「③域内調達率を“高める”」を実現するために必要な視点を整理し、視点ごとに先進事例を紹介し、課題や苦悩をどう乗り越えたかにも注目し、インバウンド需要を地域経済活性化に結びつけていくためのヒントが見つかります。公財) 日本交通公社 編著／A5判188ページ／2200円+税

公益財団法人 日本交通公社 出版物のご案内

- ここで紹介している当財団発行の出版物は、全ページをホームページで公開しています。
- またアマゾン(amazon.co.jp)で、オンデマンド印刷版を販売しています。

『平成30年度 観光地経営講座 講義録』 (発行:2018年11月)



平成30年度『観光地経営講座』のテーマは「多様化する宿泊事業に対応する観光地経営」です。宿泊事業は世界的に大きく変化してきています。国際化が進展する中、我が国の宿泊事業もその流れを受けて大きく変化しつつあります。そうした宿泊事業の変化について、国際規模での宿泊事業投資のコーディネーター、ファンドも活用しながら所有と経営を分離し多店舗展開を行っている宿泊事業者、日本で世界基準のコンドミニアム事業を立ち上げてきた開発運営事業者、そして、自身が持つ住居系不動産(アパート)を利用し新たな宿泊事業に取り組む宿泊事業者の方々に講師に、宿泊事業に生じている「変化」「ダイナミズム」を参加者の皆様と共有させていただきました。そして、地域として何を目指していくのか、宿泊事業という大きな資本をどのように地域に呼び込み、育て、発展させていくのかについて、ディスカッションしました。観光地に対する「投資」はその地域の持続的な成長に欠かせない要素です。インバウンドが動いてきた現在は、そうした投資を呼び込むチャンスともなっています。その手段として、地域における宿泊施設をどのように構成していくのか、どのように活用していくのかについて考えるヒントになったと考えています。A4判80ページ/1,000円+税。『観光地経営講座 講義録』は、平成25年度版からホームページで公開しています。

『旅行年報2018』(発行:2018年10月)



「日本人の旅行市場」「訪日外国人の旅行市場」「観光産業」「観光地」「観光政策」の5編と、「付記(観光研究)」「資料編(統計資料と年表)」で構成。各種の統計資料や当財団が実施した調査結果をもとに、最近一年の動向を解説しています。A4判224ページ/2,000円+税。経年で見る事ができるように、『旅行年報』は、2014年版からホームページで公開しています。

『温泉まちづくり』(発行:2018年3月) -2017年度 温泉まちづくり研究会総括レポート-



「温泉まちづくり研究会」は、7つの温泉地(阿寒湖、草津、鳥羽、有馬、道後、由布院、黒川)が集まり、温泉地、温泉旅館が抱える課題について、解決の方向を探り、活性化に資することを目指しています。本書は2017年度に開催した3回の研究会の内容を分かりやすく取りまとめたものです。第1回は「温泉地の雇用環境」をテーマとし、今年度研究会として実施する宿泊施設従業員・経営者アンケートの内容などについて議論を深めました。第2回は「温泉地でのアート(芸術文化)の展開を考える」と題し、芸術祭でいかに地域が発展していくのかなどについて学びました。第3回は「温泉地の雇用問題を考える～今後どう取り組むべきか～」と題し、各会員温泉地で実施した宿泊施設従業員・経営者アンケートの結果をもとに、今後の温泉地での人材の「確保」「定着」「育成」についての議論を行いました。A4判84ページ/1,500円+税。『温泉まちづくり』は2011年度版からホームページで全ページを公開しています。

「研究員コラム」の紹介 毎号、研究員がみなさまにお伝えしたい観光テーマで綴る「研究員コラム」。全文は当財団のホームページでご覧下さい。隔週月曜日の更新です。

我が国の観光統計をめぐる一連の課題 [コラムvol.385]…塩谷英生



我が国の観光統計の課題について少しお話ししてみたい。国や地域の観光行政担当者、観光事業者、研究者など統計ユーザーの便益

という観点からみて、手直しすべき我が国の観光統計の課題は様々にある。それらを大別するならば、観光統計自体の質的な側面と、観光統計の利活用の側面とに二分されるだろう。

港区みどりの街づくり賞受賞にあたって [コラムvol.384]…相澤美穂子

わたしたちのオフィス・日本交通公社ビルが「港区みどりの街づくり賞」を受賞しました。今回表彰された他の4施設は商業ビルやホテル、マンションと業態はそれぞれ異なりますが、いずれも港区の街並みと建物との連続性を意識した設計であったことが各施設の紹介から窺うことができました。わたし自身がこれまで携わってきたみどりと関わりの観光資源として接する機会が多く、景観そのものの価値に重きを置きがちでした。しかし今回の受賞はみどり単体としての価値だけではなく、地域とのつながりを含めた価値にも目を向けることの大切さを教えてもらった貴重な機会となりました。



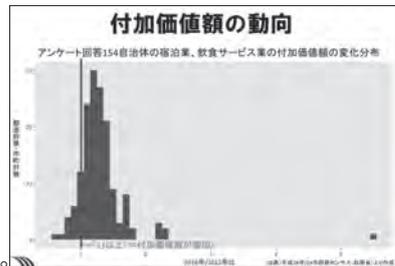
地域の思いが詰まった廃校を“新たな交流拠点”に [コラムvol.383]…吉澤清良

鳥海山山麓に2018年7月1日、新たな美術館が誕生しました。その名も「鳥海山 木のおもちゃ美術館」。もとは明治から大正時代の校舎形式を受け継いだ東北日本海側の特徴ある木造校舎で、3つの棟(A~C棟)と、元体育館(D棟)の、計4つの建物からなっています。A棟・D棟が有料の美術館ゾーン、B棟・C棟が無料の市民ゾーンです。子ども達に大人気なのはD棟「もりのあそびば」。スギ、エンジュといった主に秋田県材が使用された、優しくあたたかな雰囲気包まれた空間の中央には、隠れ家のようなツリーハウス「ちようかいタワー」がそびえ立ち、5000個「木のどんぐりプール」や、様々なおもちゃが置かれた「遊びのこべや(26室)」が整備されています。A棟では…



観光政策の目的と手段 [コラムvol.382]…守屋邦彦

当財団では、地方公共団体(都道府県および市町村)を対象とする「観光政策に関するアンケート調査」を2014年度より毎年継続して実施している。現在、このアンケート結果を元に、「観光振興による取り組みは経済的な影響を与えているのか?」「どのような取り組みが影響を与えているのか?」といった点を中心に分析を進めているところである。本コラムでは、その一端をご紹介します。



当財団のエントランスにあるギャラリーでは、
当財団の沿革を紹介する常設展示をはじめ、研究成果などを紹介する企画展示を定期的におこなっています。
また、旅の図書館では所蔵古書をさまざまな切り口から紹介する古書展示をおこなっています。
ご来館の際はぜひご覧下さい。



『富士山 公益財団法人日本交通公社の取り組み』

(2019年1月～3月)

日本一の高さを誇り、日本を代表する山である富士山。その姿は、古来より日本人の自然に対する信仰のあり方や日本独自の芸術文化における源泉となっており、その価値を踏まえて2013年、世界文化遺産リストに記載されました。現在、富士山では文化遺産としての価値の認知度向上や登山道の混雑による安



全性の低下などが課題となっています。

今回の展示では、富士山に関する当財団の調査・研究の経緯をはじめ、安全で快適な富士登山を楽しむための「来訪者管理戦略の策定」や、富士山の奥深さに触れてもらうための「REBIRTH/富士講プロジェクト」の概要などをご紹介します。



旅の図書館開設40周年特別展示第3段

『日本における観光行政のあゆみ ～国際観光局の12年～』

(2019年1月～3月)

経済的困窮の打開策、国際親善の有力手段の一方策として外客誘致の重要性が認識されつつある中、昭和5年に「外客誘致に関する施設の統一連絡及促進を図る官設の中央機関」として設置されたのが、鉄道省国際観光局です。同局は、太平洋戦争に突入するまでの約12年間にわたり、ジャパン・ツーリスト・ピュ



ーロー（日本旅行協会）や国際観光協会などの関連組織とともに、海外における観光事業の調査研究、ホテルや観光地の整備、海外への観光宣伝、外客への接遇改善などを実施しました。今回の特別展示では、我が国における観光行政のルーツである同局の取り組みを出版物からご紹介しています。

機関誌

観光文化

第240号

第43巻1号 通巻 第240号

発行日●2019年1月31日

発行所●公益財団法人日本交通公社

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7番29号 日本交通公社ビル

☎03-5770-8350 <https://www.jtb.or.jp>

編集室●☎03-5770-8364 mail:kankoubunka@jtb.or.jp

発行人●末永安生

編集人●有沢徹郎

表紙デザイン●川口繁治郎(Rivers More)

本文デザイン●川口繁治郎(P.P1-3/P.P47-78), 竹内靖広(P.P4-46)

校正●株式会社ぶれす, 株式会社REGION

制作・印刷●株式会社REGION

機関誌

観光文化

第240号

第43巻 1号 通巻 第240号



公益財団法人 日本交通公社
Japan Travel Bureau Foundation

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7番29号 日本交通公社ビル
東京メトロ銀座線、半蔵門線、都営大江戸線「青山一丁目駅」5番出口から徒歩3分
TEL: 03-5770-8350
FAX: 03-5770-8358
<https://www.jtb.or.jp>



公益財団法人 日本交通公社
旅の図書館
LIBRARY OF TOURISM CULTURE

〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7番29号 日本交通公社ビル
開館時間: 10:30~17:00
休館日: 土曜日・日曜日・祝日・毎月第4水曜日・年末年始・その他
(※会議開催等による臨時休館日があります。
必ず当財団のホームページ
<https://www.jtb.or.jp/library/>
でご確認の上ご来館ください)